

# 「唐津城跡」 現地説明会 平成21年6月28日(日)

## ○石垣調査成果のポイント○

- ①明らかになった唐津城の様子  
 これまで唐津城跡の詳細な発掘調査や石垣解体調査はほとんど行なわれておらず、具体的な状況は分かりませんでした。しかし今回の調査により、櫓台や塀跡、石垣構築の状況等を初めて確認しました。
- ②金箔瓦の発見  
 唐津城で初めて、金箔瓦が出土しました。発見した金箔瓦は鯨瓦のヒシ部分と考えられます。金箔瓦が出土した例は全国で40城程確認されていますが、県内では名護屋城に次いで2例目の発見となります。
- ③名護屋城並行期の瓦が大量に出土。  
 肥前名護屋城跡から出土している軒瓦と同型または同タイプの瓦が、石垣造成土の中から大量に出土しました。この調査結果からは、現時点で次の2つの可能性が考えられますが、唐津城築城の謎を解くための重要な発見となりました。  
 ◎唐津藩初代の寺沢氏が唐津城を築城する際に、名護屋城の瓦などをリサイクルして使用した。  
 ◎唐津城築城以前、この地に名護屋城と同時期の建物が建てられていた。



## ○調査に至る経緯○

唐津城の石垣は、築城されてから400年が経過し、石材の劣化や石垣の孕みなどが目立つようになってきました。平成17年には、石垣修復の専門家から崩落の危険性が改めて指摘され、唐津市では約3年をかけて総合的調査を実施することとなりました。またそれと併行して専門委員会を立ちあげ、修復の方向性・方法について、土木や石垣修復など様々な分野の先生方に検討していただきました。その成果を受けて、平成20年度から解体整備事業が開始されることとなり、昨年10月から発掘調査に着手しました。また石垣解体工事(調査)は今年3月から始まり、今月中旬に終了しました。

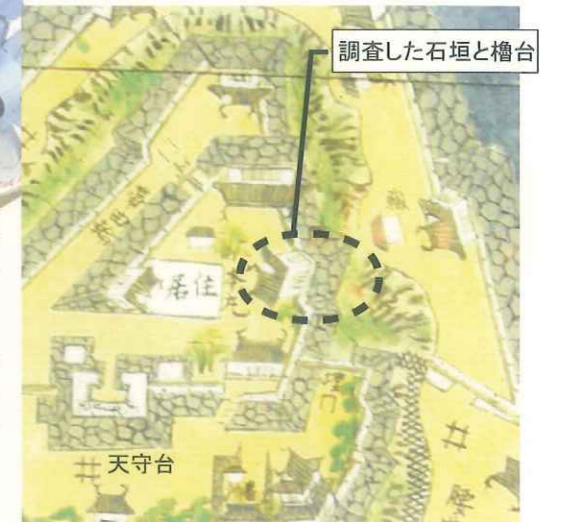
## 江戸時代の唐津城

### ○調査の概要○

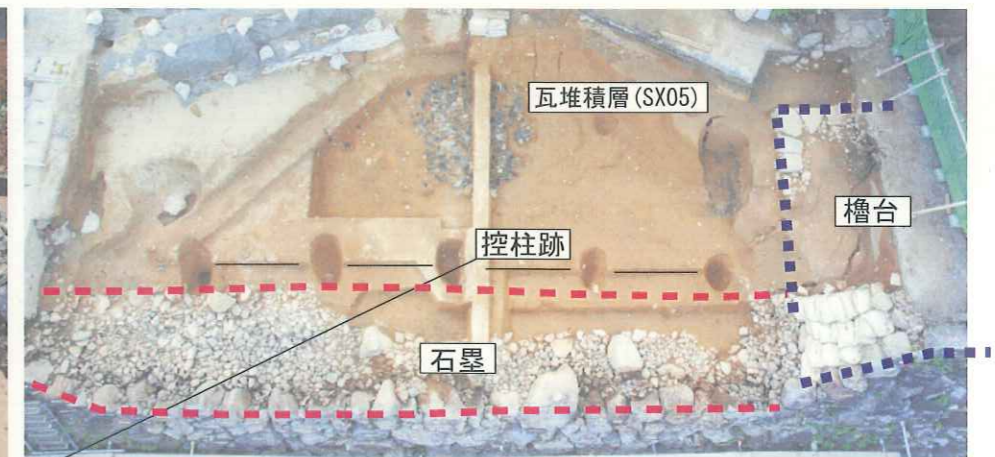
今回の調査区は、唐津城本丸の東側、本丸大手虎口から北に延びる石垣(15面上段石垣・15面下段石垣)部分となります。旧地形ではこの場所に細く深い谷が東西に延びており、この谷筋に直交するように2段の石垣が築かれています。二つの石垣は近接しているにもかかわらず、両者の軸がずれており、南から北に向けて開くように築かれています。

江戸時代の絵図を見る限り、15面下段石垣は記載されていません。発掘調査では、櫓台や石罫・玉石遺構等が検出され、江戸時代の唐津城の様子が明らかになりました。さらに石垣解体調査により、当時のハイテク技術であった石垣構築の状況も見えてきました。

石垣解体のあたっては、今回の解体対象範囲を、上段石垣は上から1～21段に、下段石垣は上から1～16段に分け、一段毎に調査しながら解体していきました。



江戸時代中期の唐津城絵図



### 塀跡の発見(石罫と控柱跡)

15面上段石垣の2.5m程内側に、石垣に沿うように石罫石垣を確認しました。石罫は櫓台から続いており、南にある大手虎口方向へ延びていました。一般的には、この石罫の上に塀が築かれます。石罫のさらに内側から、3m間隔で5つの柱穴を確認しました。柱穴は1列しかなく、非常に深くまで掘られた掘立柱であることから、塀を支えるための控柱の抜き取り跡と考えられます。江戸時代中期の絵図にも塀の様子が描かれています。

### 本丸櫓台の発見

調査区の北側で、櫓台の石垣を新たに確認しました。櫓台の規模は南北9.8m、東西5.5mです。根石石材はさほど大きくないので、根石から1m程の高さの石垣であったと想定されます。江戸時代中期の絵図にもこの櫓は描かれています。



### 排水溝の発見

櫓台の下では、幅30cm程の石組溝を検出しました。砂岩製で、細長い板状の石材をホゾでつなげています。溝の内面、各石材のつなぎ目付近には、目印となる記号や組合せの順番を示す漢数字が刻まれていました。石組溝は南東に向けて真っ直ぐに延びており、北側の石垣と接する場所で溜枘状の石組(108cm×140cm)につながっていました。この溜枘状石組の上を見ると、石垣の中ほどから石組の溝が突き出ており、雨水の排水施設であったことがわかります。

# 見えてきた唐津城石垣の様子

## ○唐津城の石垣○

唐津城の石垣は、熊本城等に代表されるような反りがほとんどなく、直線的に立ち上がるのが特徴です。また石材では、割った花崗岩を用いることが多いようです。ただし、本丸の北側の石垣は、主に自然石を用いた野面積みで、石材は花崗岩だけでなく玄武岩も使用しています。今回調査を行なった15面石垣も野面積みで築かれています。

## ○15面石垣の技術的特徴○

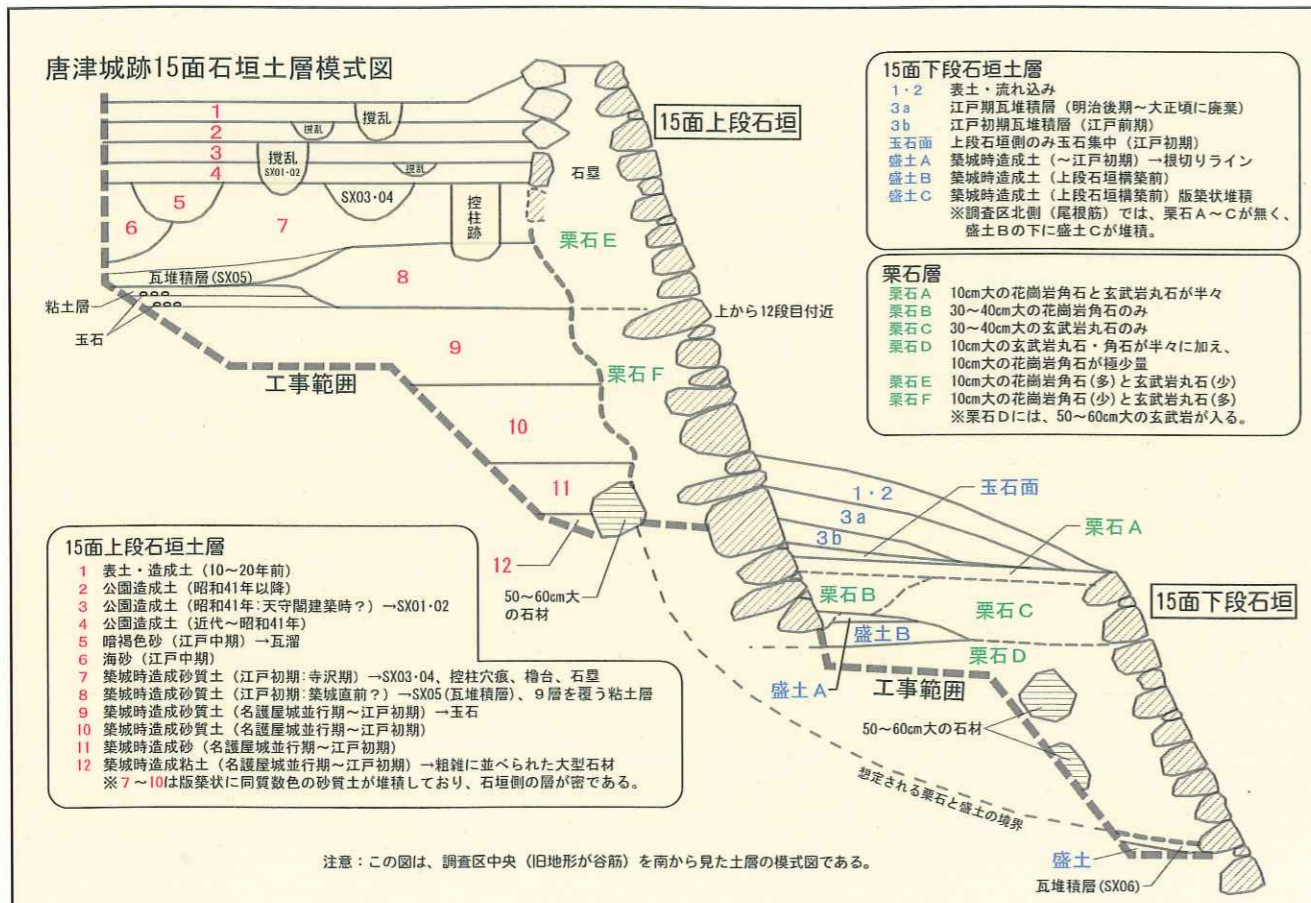
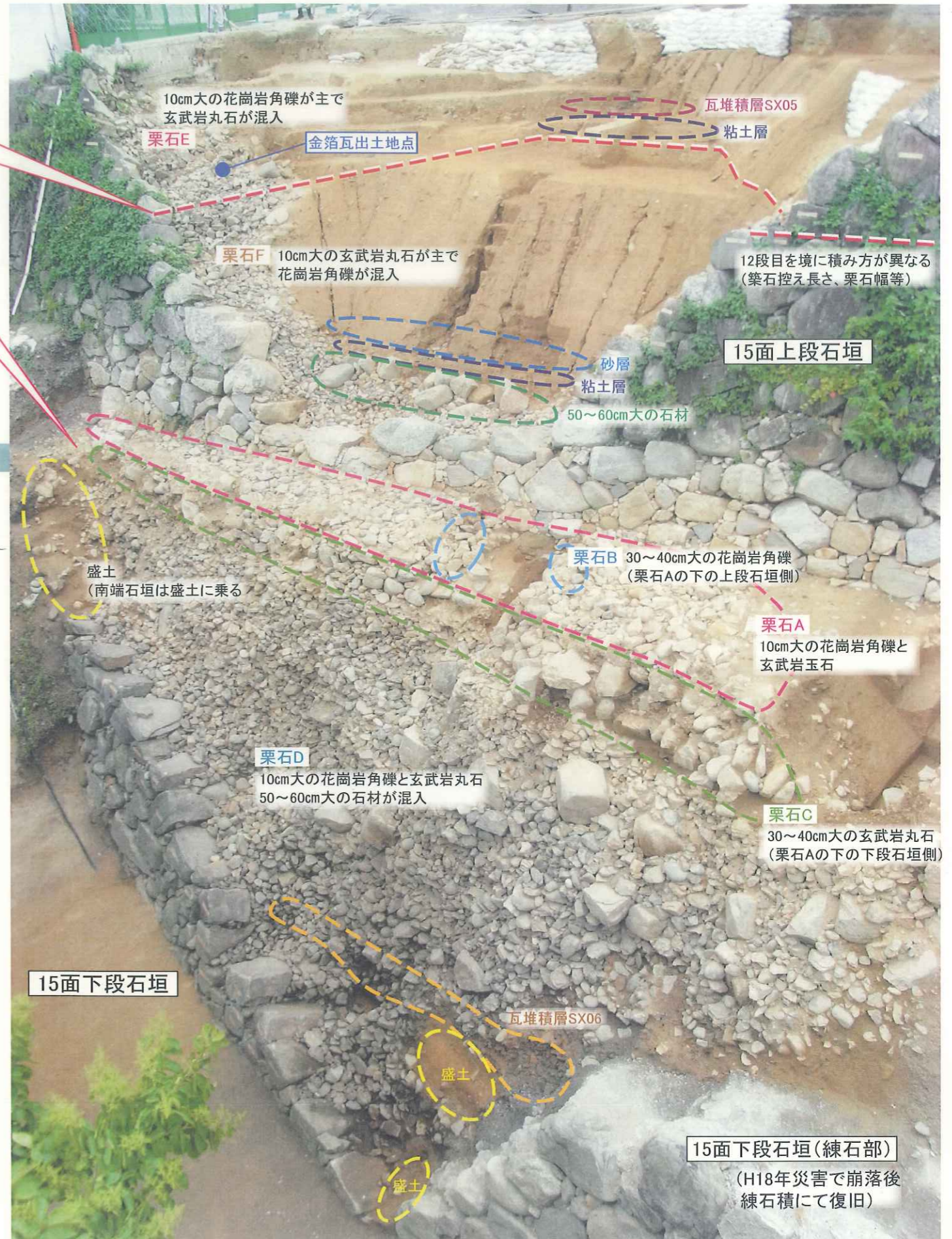
本来石垣は、櫓等の建造物と連動して機能するため、近接する石垣は平行になるか、90度に折れる場合がほとんどです。しかし、15面上段石垣と下段石垣の軸線は平行にならず角度を持って造られています。上段石垣の軸線は、本丸全体の石垣にあわせて築かれています。これに対し下段石垣は、細く深い谷筋に直交するように軸線が決められているようです。

15面下段石垣のように、これほど広範囲にしかも数種類の栗石を使用する例は唐津城跡では確認されていません。15面石垣部分は、本丸からの雨水等が集中し、急傾斜のため崩落の危険が高く、慎重に石垣を築く必要があったと思われます。今回確認した栗石は、集中する雨水等を排水するための施設とも考えられますが、栗石の中に30~60cm大の大型石材を部分的に使用するなど、一般的な石垣では見られない内容もあり、今後の調査を含め、検討すべき課題となりました。

## 積み替えられた？唐津城石垣

15面上段石垣では、石垣石材の規格や栗石の材質・分布範囲が、上から12段目（石垣の中程）で異なっています。この場所を境に、石垣が積みかえられた、または増築された可能性が考えられます。

また、15面下段石垣では、4種類の栗石が位置を違えて使用されていました。栗石Dは15面上段石垣の下まで広がっている事から、下段石垣を築いて谷筋を栗石Dでふさいで、その後に上段石垣を築いたようです。



# 唐津城跡の出土遺物

～唐津城初！金箔瓦の発見！～

## ○出土遺物の種類○

発掘調査及び石垣解体調査により様々な遺物が出土しています。そのほとんどが瓦で、軒丸瓦・軒平瓦・鬼瓦・鯨瓦等、様々な種類が出土しています。瓦は調査区全域から出土しましたが、特に集中して出土した場所がありました。上段石垣と下段石垣の間にある平坦部で、厚さ50cm程に堆積した瓦層を確認しました。ここに含まれる瓦は、いずれも江戸時代のものでした。

さらに、15面上段石垣の造成土中(SX05)と下段石垣の栗石層の下(SX06)からも瓦堆積層が検出されていますが、これ等から出土した瓦は、江戸時代の瓦より古い、名護屋城並行期の瓦(名護屋城跡から出土した瓦と同じ文様をもつ瓦)でした。

なお瓦以外では、唐津焼や中国磁器等、瓦止め用の鉄釘、古銭などが出土しました。



上段石垣と下段石垣の間の平坦面に広がる瓦堆積層(左)とSX05(右)

## ○金箔瓦とは？○

金箔瓦は全国の40程の城郭で確認されています。城郭用の金箔瓦を使用したのは、織田信長によって築かれた安土城が最初といわれています。信長の死後、豊臣秀吉は織田一門以外の使用が認められなかった金箔瓦を、大坂城で初めて使用し、信長を継いで天下統一を行なうことを示したのです。金箔瓦は豊臣政権の確立により、規制されながらも各地の拠点城郭で、政治的な目的で使用されるようになります。

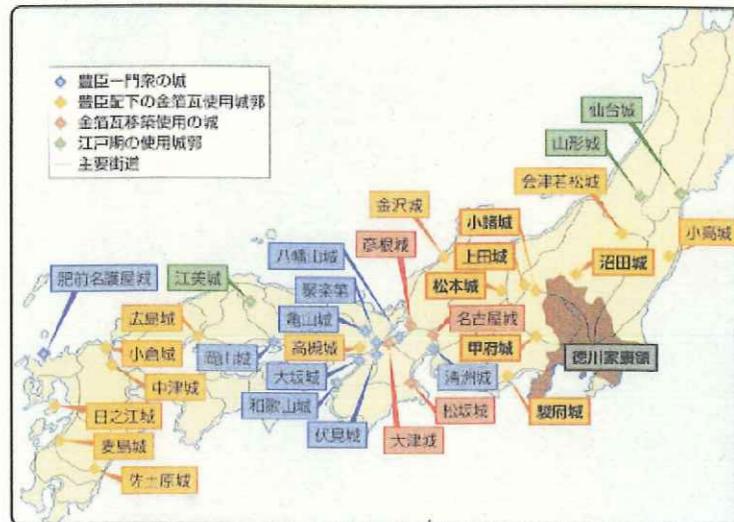


図 金箔瓦が出土した城郭(豊臣秀吉の頃)

(『よみがえる名城 漆黒の要塞 豊臣の城』金箔瓦の城塞群 加藤埋文2008より引用)

## ○出土した金箔瓦○

15面上段石垣の栗石の中から、金箔瓦が出土しました。金箔はほとんど剥げていますが部分的に残っており、金箔と瓦の間に接着剤として塗った赤漆(うるし)も見られます。この金箔瓦は鯨瓦のヒレの一部と思われます。裏面に模様が描かれていないことから、尾ヒレではなく胸ヒレ、又は腹ヒレのようです。

また、発掘調査で江戸時代の鯨瓦も出土していますが、そのヒレはクシやハケで粗く描かれています。しかし、金箔瓦の方が、胎土がきめ細かく、硬く焼きあがっており、細かい細工で丁寧に仕上げられています。

ただし、斜めに入る細かい線が葉脈に似ていることから、植物文が入る飾瓦の可能性も残ります。



栗石の中から出土した金箔瓦

## ○瓦が語る唐津城の歴史○

ここで、今回出土した金箔瓦や名護屋城並行期の瓦の時期と性格を考えると、2つの可能性が見出せます。

一つ目は、移築に伴うリサイクル使用です。唐津城築城の際に肥前名護屋城の瓦を使用したことが、伝承として後世の記録に多く残されています。平成7年度の調査でも、本丸亀頭櫓下で出土した桐文瓦をはじめとする数種の瓦が、名護屋城出土の瓦と同範であることが確認されていますが、今回の調査では、さらに多くの同範・同タイプの瓦が出土していることから、相当数の建物にこれらの瓦が使用されていたと考えられます。

二つ目は、慶長七年に始まる唐津城築城に先行して、名護屋城に関連する拠点としてこの地に金箔瓦が使用された建物が建てられていた可能性です。少数ですが、これを示唆する古文書も残されています。

金箔瓦は、県内では天下人の城である名護屋城に次いで2例目の貴重な事例となりました。九州でのこれまでの例を見ると、小倉城・中津城・日野江城・麦島城・佐土原城・(伝)熊本城など、それぞれの地域における拠点の城でしか出土しておらず、唐津城もまたこれらの城郭とともに、大変重要な城であったことを裏付けているといえるでしょう。